

仏教と寺

古墳時代後半、聖徳太子が活躍し、幕開けをきった飛鳥時代（592年か710年）聖徳太子（574年から621年）は蘇我氏とともに天皇を中心とした中央集権国家設立のため仏教と儒教の精神を持った古代仏教を普及させ、寺の造営を行っていきます。それを官寺（かんでら）と呼び、国家が寺号を定め、国家が一定の保護と官僧を派遣し守っていきます。定額寺（じょうがくじ）という寺名が書かれた額を授与される定額寺（私寺）というのものもあるそうだが、寺井廃寺は屋根に瓦が使われているが、定額寺であったと思われる。

716年を頂点に741年の聖武天皇の時、全国に整然と統治能力を持った国分寺を建設する詔が発布されると一部官寺と定額寺は廃寺となります。